

## こんなにあった日本の薬害

- |  |   |
|--|---|
| <p>1956 ペニシリンショック<br/>アレルギーによるショック死。</p> <p>1961 サリドマイド<br/>睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本ではレント博士の警告後、5ヶ月間も販売を継続。</p> <p>1965 アンブル入かぜ薬<br/>大衆薬で死亡者。発売中止に。</p> <p>1970 スモン<br/>下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害。70年に殺菌剤キノホルムの販売中止。被害者約12000人。副作用報告を無視し整腸剤として大量販売。闘いの結果、「医薬品副作用被害救済制度」を創設。</p> <p>1983 薬害エイズ<br/>エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された</p> <p>1988 陣痛促進剤<br/>陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す。</p> <p>2021 コロナワクチン接種開始（2021.2.17）<br/>任意と言いつつも強かにワクチン接種を勧め、未接種者は社会悪のような扱いを受けている。2022年9月2日時点でワクチン接種後の死亡者が1835人、重篤者23879人である。重篤者とは寝たきり、体の麻痺により通常生活も困難な状態にある人をいう。ワクチン接種から1年7ヶ月で1835人の死亡者はこれまでの薬害と比べて突出している。わずかでも死亡事例が発生すれば一度接種を中止していたが、現状では全く見向きもせず、むしろ未だに接種を推奨している。2024年1月現在での接種後死亡者数は、2400人を超えている。<br/>2年間のコロナワクチン接種で、過去46年間の各種ワクチン接種後の死亡者数を超えてしまった。</p> | <p>1989 MMRワクチン<br/>3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生。</p> <p>1993 ソリプジン<br/>抗がん剤との併用で死亡者多数。</p> <p>1996 薬害ヤコブ病<br/>脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。130人以上がヤコブ病を発症し植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから1年遅れの1997年。</p> <p>2002 薬害肝炎<br/>C型肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国、製薬企業と基本合意。</p> <p>2002 薬害イレッサ<br/>肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の、承認審査・安全性情報伝達・副作用被害救済に関する課題を残した。</p> <p>2006 薬害タミフル<br/>インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなどの異常行動で死亡。10代には使用禁止に。</p> <p>2009 HPVワクチン薬害<br/>ワクチン接種を受けた少女に歩行・記憶障害など後遺症が残る副反応。2013年接種推奨を中止。2016年から裁判で責任を追求。</p> |
|--|---|